



Sangam's Community Programme "Tare"

No.2

神奈川県第8団 大堀すみれ

#WHEN WE SHINE

Tara Mobile Creche でのアクティビティ展開

Tare として働く

Tare プログラム参加者は週に4日、月・火・木・金に、コミュニティパートナーへ赴きボランティアとして働きます。配属先は申込書に書いた興味のあるフィールドに基づいて決まります。私は子供の教育に興味があったので、Tara Mobile Creche というデイケアセンターに配属となりました。約2週間の Sangam 内でのイベントを通して、自分たちが働くコミュニティパートナーやインドの文化について学んだ後、9週間働きました。



最初の週は、どんなアクティビティを展開したらいいか日々試行錯誤してお

りましたが、子供たちの興味がわかるようになるにつれて、計画を立てやすくなり、子供たちと楽しめる余裕さえできました。1日のうちに、クラフトの時間の他に、必ずダンスや歌、ゲームなど体を動かすものを取り入れるようなプログラムを立てるようにしていました。ここでは各週のハイライトを振り返りたいと思います。

第1週目(1月19日~26日)

1日目に私自身の自己紹介をした際に、子供たちは世界地図で日本の位置を探し始め、非常に興味を持っているように見えました。そこで、第1週目は日本らしいものを取り入れたアクティビティを展開しました。まず、私の家族や日常生活について日本の文化について簡単に、写真と共に紹介し、その後折り紙や、あやとりを教えました。割り箸で制限時間内にどれだけペイズを掴めるかというゲームは大盛況でした。

第2週目(1月29日~2月2日)

子供たちは塗り絵や絵を描くのが好きで、よく動物を描いているのを見かけ

るので、この週はテーマを動物としました。マラティー語(子供たちが話す州の言語)、英語と動物の絵が描いてあるカードを使い、神経衰弱を楽しみながら、英語も教えました。クラフトでは、毛糸を使って羊のバッジを作ったのですが、その場で胸につけてはしゃいでいました。



第3週目(2月5日~2月9日)

新聞紙を使ったエコなペーパーバッグの作り方を教えました。このバッグは、教室内に常に置いておく作品バッグとして使うのが目的です。その日のうちに終わらなかったクラフトを、次の日に引き続き行

いたいという子供たちがいるものの、途中で作ったクラフトを家や学校に置いてきてしまうのが小さな問題でした。教室には子供たち用の個人の机はなく、棚のみなので、このペーパーバッグは私物を教室に置いておくのに助けになります。バッグの表面は、雑誌から好きな写真を切り抜き、**コラージュ**で飾り付けをしたのですが、子供たちが何に興味があるかを把握できる良い機会となりました。



第4週目(2月13日~16日)

近年はインドでもバレンタインを祝うことが増えてきたようなので、消しゴム付き鉛筆の消しゴムをステンシルとして使用し、**バレンタインカード**を作りました。鉛筆に付いている消しゴムを使うという発想に驚いているようでした。男女ともにハートのモチーフが好きなようで、それぞれ自分好みのカードを作って盛り上がりました。

第5週目(2月19日~23日)

中国の旧正月に因んで、紙で龍を作り、**龍舞**を楽しみました。ペーパーチェーンを長く作り、木のスティックを付け、それぞれの子供が配置に付けるようにしたところ、どうすれば龍が生きているかのように動かせるか意見を対立させながら、様々な動きを試し、生き生きとしていました。



第6週目(2月26日~3月1日)

ビーズを使って**プレスレット**を作りました。以前、カラーゴムでプレスレットを作った際に、男の子も含め全員気に入ってしまったようで、またプレスレットを作りたいと要望が多く、今回も非常に楽しんでいました。始めはアイロンビーズを使って、簡単なパターンを教えたところ、自分で次々と複雑なパターンを作る子供たちもいて驚かされました。また、読み終えた雑誌から作る**ペーパービーズ**の作り方と共に、環境を守っていくことの大切さについても話しました。(日頃から工作に使う材料はなるべく、新品のものではなく、あるものを再利用して作るようにしています。)

第7週目(3月5日~3月9日)

突然体調を崩し、この週はお休みをいただきました。水と食べ物には十分に気を付けていたのですが、慣れない環境でのハプニングはつきものですね。

第8週目(3月12日~3月16日)

施設にいる子供たちが、プネー市で行われる**ダンス**のコンテストに出場するため、週に数回ダンス指導の先生が外部から施設に来てレッスンを受けていました。Tara Mobile Crecheでは、クラスを受け持つのはこの施設で働いている先生方ですが、各教科担当の先生方は外部から来ています。



施設の先生たちの計らいで、私も子供たちに混じって、その先生からインドの音楽に合わせたヒップホップダンスを教わることができました。また、日本らしい音楽や踊りにも興味があったようで、何か教えてほしいと子供たちに頼まれ

たので、ソーラン節を数日に分けて教えました。動きがハードなためか、子供たちは非常に楽しんでいました。

第9週目(3月19日~3月23日)

一人ひとり**フォトフレーム**を作り、全員分をつなげて一つの大きなパネルを作りました。写真の代わりに、施設のお庭に生えている草花を使い、季節を閉じ込めました。街中で花壇や緑を見かけることがあまりなかったため、子供たちがクラフトを通して、草花に興味を持てるものにしました。

最後の週に何をするか考える時に、思い出として教室に残るものしようと、思い、大きな作品にしました。

Tareとしての役割

Tareプログラム参加者は、コミュニティパートナーに赴いて働きますが、そこを職場として働いている方々に比べれば私たちは当然初心者です。そんな私たちに一体何ができるのかと、始めのうちはいつも考えていました。

しかし、働いているうちに、子供同士の喧嘩や、それをなだめる先生方の方法に疑問を持つことが出てきました。

毎週水曜日は、施設には赴かず、Sangam内でプログラムがあるのですが、その際に、Tareプログラム参加者同士で報告する時間があります。その時に、私が疑問に思っていることを話すと、異なる施設で働いている他のTareプログラム参加者にも同じ考えを持つ仲間がいました。そこで、Sangamのこのプログラムのマネージャーは私たちに、「疑問に思うことが大事。いつも同じメンバーで運営をしていると問題点が見えなくなってくるから、それに気が付いて、変化のきっかけをもたらすのがTareの仕事」と教えてくれました。

教育のプロフェッショナルでなくても、私たちガールスカウト・ガールガイドが社会に少しずつ貢献していくことができることが改めてわかりました。